

ソフトウェアプロセス改善カンファレンス 2022

# SPI Japan 2022

「つづける」

～カイゼンへの情熱を胸に未来へ踏み出そう！～

オンライン開催

**日時** 2022年 10月5日(水)～7日(金)

**主催** 日本SPIコンソーシアム(JASPIC)

**後援**

独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)  
ソフトウェア技術者協会 (SEA)  
日本 SPICE ネットワーク  
一般財団法人 日本科学技術連盟 (JUUSE)  
一般社団法人 PMI 日本支部  
派生開発推進協議会 (AFFORDD)  
Agile Japan



## SPI Japan 2022 開催にあたって

SPI Japan はおかげ様で 20 回目を迎える伝統あるイベントとなりました。2003 年の初回から講演資料の多くが JASPIC の Website で公開されています。改めて見直してみても有益な情報が詰まっています。設立当初から JASPIC は、プロセス改善に関する実践情報を収集蓄積し、それらを分析整理して、体系的な知識として社会に発信する活動に情熱をもって取り組んで参りました。SPI Japan の講演資料はその経緯を示しており、我々の重要な資産となっています。

JASPIC の思いは活動方針に掲載されています。設立時に考えた活動の趣旨や目的を発展させ具体化したビジョンパッケージも公開しています。(http://www.jaspic.org/organization/policy/)

ソフトウェア開発のプロセスを明示化し、改善することで産業や社会に貢献することを原点にしており、達成したいゴールとして以下の 4 項目を掲げています。

1. 知識の体系化
2. 価値の訴求・探求
3. 専門職としての確立
4. 貢献領域の拡大

過去 20 年間で、デジタル技術の適用分野が拡大し、産業や社会に本質的な変革を引き起こされています。ソフトウェアの適用領域と利害関係者が一段と拡大して、ソフトウェアの開発プロセスも変化し、開発対象の性質に合わせた適切なプロセスの選択や定義が益々重要になっています。

人間の知的活動をモデル化し、コンピュータに処理させるという活動は拡大の一途を辿っています。新たな価値を生み出すために、多種多様な人間が協力すると同時に、これまでにない形で人間とコンピュータが連携の度合いを深めています。

多数の人間の知的活動をモデル化し、操作、改善する技を磨いているプロセス改善の専門家が果たすべき責務は増大し、活躍の機会とその重要性を増しています。我々が情熱をもって蓄積してきた知見をさらに充実し、それらを現実の問題に適用して社会的価値につなげていくべく、20 回目の SPI Japan が多くの皆さんの交流の場になることを確信しております。

日本 SPI コンソーシアム 理事長

端山 毅(株式会社NTTデータ)

## SPI Japan 2022 開催にあたって

ソフトウェアプロセス改善カンファレンス(SPI Japan 2022)にご参加いただき、ありがとうございます。

SPI Japan は、今年で 20 回目となりました。これまで長く続けられたのも、プロセス改善に関わる数多くの経験や知見、事例を SPI Japan の場で共有し、議論することによって参加いただいた皆様とともに多くの気付きを得て、次に繋げる良い循環をつくることができたためです。本カンファレンスにご参加、ご支援いただいたすべての皆様のおかげであると感謝しております。

長期にわたる新型コロナウイルスの影響もあり、今回もオンライン開催を選択しています。以前のように皆様と直接お会いして同じ空間で想いを共有し、語り合うことができるのはもう少し先になりましたが、まずは開催できることを大変嬉しく思っております。

さて、今年の SPI Japan のテーマは

「つづける」～ カイゼンへの情熱を胸に未来へ踏み出そう！ ～  
です。

我々を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの対応と相まって働き方の多様化が加速し、世界経済やサプライチェーンの混乱、地球規模での気候変動、度重なる自然災害などにより不安定要素が拡大しています。また、IoT や AI、クラウドなどの新しいデジタル技術の追従や品質・セキュリティの担保、SDGs や Society5.0、DX 対応など、予測が難しく急激に変化する環境や社会に合わせて変わりつづけることを常に求められています。このように先を見通すことが難しい現在であっても、改善を止めるわけにはいきません。こんな時代だからこそ、皆様が蓄積してきた経験や知見、事例を共有・活用して改善を「つづける」力に進化させることで、未来に向けて踏み出すことができると信じております。

3 回目のオンライン開催ではありますが、企画内容をさらに充実させて様々な交流の機会をプログラムとしてご用意しております。参加いただいた皆様にはデジタルツールを上手に活用して交流を図り、ひとつでも多くの知見を得て自社にお持ち帰りいただくとともに「参加して良かった」「楽しかった」と感じていただければ幸いです。

最後になりますが、今回のカンファレンスも JASPIC 会員企業はもとより、各企業、各団体の皆様から多くのご応募やご提案、ご協力をいただきました。おかげをもちまして、充実したプログラム構成が実現できたことを、心より御礼申し上げます。

2022 年 10 月

SPI Japan 2022	実行委員長	武田 治紀
SPI Japan 2022	副実行委員長	池田 浩明
SPI Japan 2022	プログラム委員長	八木 将計、羽原 寿和、久和 恭子

## プログラム

≪1日目≫ 10月5日(水) (1/5)

時間	内容
	<p>初めてオンライン会場にアクセスする場合は プログラム開始時刻の 30 分前から接続を推奨</p>
	<b>◎オープニング</b>
13:00 ～ 15:00	<p><b>◎基調講演</b>  <b>タイトル:改善と Improvement「つづける」ことの違い</b>                      ゴールシステムコンサルティング株式会社                      代表取締役                      村上 悟 氏</p>
15:00 ～ 15:30	休憩
15:30 ～ 17:30	<p><b>◎みんなでディスカッション</b>  <b>「つづける」にちなんだ話題</b>                      SPI Japan2022 企画推進チーム</p>
18:00 ～	<p><b>◎オンライン懇親会</b>                      オンライン開催となってから初となる懇親会(飲み会)を開催します。                      懇親会に参加する方は好きな飲み物や食べ物をご用意いただく必要があります。                      懇親会では飲み会用のテーマを設定予定ですので、                      参加者同士で会話して交流を楽しみ、盛り上がりましょう！                      SPI Japan2022 企画推進チーム</p>

《2日目》 10月6日(水) (2/5)

時間	内容
	初めてオンライン会場にアクセスする場合は プログラム開始時刻の 30 分前から接続を推奨
9:30 ～ 11:30	<b>◎セッション 1A (一般発表) プロセス改善</b>
	<b>「QMS 活動クリニック」による事業部の改善促進</b> ～事業部の健康状態を診断し、Win-Win の関係で成果目標の達成に寄与～ 中西 貴市(TIS 株式会社)
	<b>全社 QMS 全面刷新という困難な変化に対して、それを達成するための手法の紹介</b> ～組織が持つ「変革」への抵抗に対して、どのように立ち向かうか～ 江口 達夫(エプソンアヴァシス株式会社)
	<b>ソフトウェア・プロセス DX の提言</b> 中村 伸裕(住友電気情報システム株式会社)
	<b>プログラム開発における DX 構想</b> 岡本 優奈(住友電気情報システム株式会社)
	<b>◎セッション 1B (一般発表) エンジニアリング改善/プロジェクトマネジメント</b>
	<b>IT インフラ運用部門による自動化文化の形成</b> ～Python を利用した業務自動化への挑戦～ 亀尾 亮平(株式会社インテック)
	<b>設計資産分析による大規模ソフトウェアのエンハンス作業効率化</b> ～熟練者/前任者ナレッジの活用～ 香西 周作(株式会社 日立製作所)
<b>プロジェクトマネジメント業務の自動化による効率化と さらなる高度化に向けての今後の取り組み</b> 櫛 彩(TIS 株式会社)	
<b>プロジェクト成功に向けた提案品質の確保</b> 青木 直子(株式会社日立ソリューションズ)	
11:30 ～ 12:00	<b>◎発表者交流</b> 発表者と直接触れあう交流の場です。質疑の続きや情報交換にご利用ください。 発表者の都合により開催されない場合があります。ご了承ください。

《2日目》 10月6日(木) (3/5)

時間	内容
12:00 ～ 13:00	休憩
13:00 ～ 14:30	<b>◎セッション 2A (一般発表) プロセス改善</b>
	オープンソースコンプライアンスのための プロセスマネジメント標準 ISO/IEC 5230 の適合に向けて 忍頂寺 毅(株式会社 東芝)
	IT メトリクスを活用した外部ベンチマーキング事例の紹介 ～プロセス改善効果を定量的に把握する手法～ 佐藤 浩明(株式会社トインクス(ToiNX))
	組み込みソフトウェア開発のボトルネック解消によるリードタイム削減事例の紹介 森 啓太(三菱電機株式会社)
	<b>◎セッション 2B (一般発表) 組織・働き方改革</b>
	事業活動と統合した品質マネジメントシステム「守り」と「攻め」の活動事例の紹介 植田 絵里(株式会社インテック)
	エンハンスメント部門における働きがい向上の取り組み ～1年で働きがいポイント 32%UP の成果を生みだした各種取り組みについて～ 川野 いずみ(TIS 株式会社)
	技術ナレッジのグローバル共有化の仕組み構築 赤松 康至(オムロン株式会社)
14:30 ～ 15:00	<b>◎発表者交流</b> 発表者と直接触れあう交流の場です。質疑の続きや情報交換にご利用ください。 発表者の都合により開催されない場合があります。ご了承ください。

《2日目》 10月6日(木) (4/5)

時間	内容
15:00 ～ 15:30	休憩
15:30 ～ 17:30	<b>◎セッション 3A (一般発表) 人材育成</b>
	<b>七転八倒で向き合う組織の評価制度と目標設定</b> ～つづける上で求められるカイゼンと「Unlearn」～ 小坂 淳貴(クリエーションライン株式会社)
	<b>OSS ライセンスコンプライアンスを遵守するための OSS 教育の整備と全社展開</b> 小山 貴和子(株式会社 東芝)
	<b>設計工程 DX による外部設計者・プログラム設計者育成の効率化</b> 野尻 優輝(住友電気情報システム株式会社)
	<b>300 人の保守担当者がトラブルを疑似体験したら</b> ～多種多様なチームを抱えるシステム部門が実践した品質向上の一手～ 山本 優(住友電気情報システム株式会社)
	<b>◎セッション 3B (一般発表) アジャイル</b>
	<b>グローバルチームによるアジャイル開発プロセスの課題と改善</b> ～海外メンバーとのテレワークにおいて、仕事への意識と品質に対する知識レベルの違い、 言語の壁、時差・距離を超えるための対策～ 王 佩佩(富士通株式会社)
	<b>探索的テストの「気づき」に基づきプロダクトバックログの書き方の改善点を導出する手法</b> 谷崎 浩一(株式会社ベリサーブ)
<b>アジャイル開発における品質保証移行モデルの提案と実践</b> ～ホップ！ステップ！ジャンプ！アジャイル開発における現実的な品質保証のあり方とは～ 石井 裕志(株式会社 東芝)	
<b>癌治療へのアジャイルサムライ適用</b> ～得られた知見・仮説を製品開発へ応用するには～ 田中 武志(株式会社 東芝)	
17:30 ～ 18:00	<b>◎発表者交流</b> 発表者と直触れあう交流の場です。質疑の続きや情報交換にご利用ください。 発表者の都合により開催されない場合があります。ご了承ください。

《3日目》 10月7日(金) (5/5)

時間	内容
	<p>初めてオンライン会場にアクセスする場合は プログラム開始時刻の 30 分前から接続を推奨</p>
<p>10:00 ～ 12:00</p>	<p style="text-align: center;"><b>◎トーク&amp;納得セッション</b></p> <p><b>テーマ①:プロセス設計によるプロセス改善の勘所</b> 進行:ソフトウェア技術者協会プロセス設計分科会(SIGPD) &amp; 派生開発推進協議会 T21 研究会</p> <p><b>テーマ②:ソシオドラマで知る、あなたと他人</b> 進行:JASPIC 人材育成分科会</p> <p><b>テーマ③:アジャイルでハッピーになるには?</b> 進行:JASPIC アジャイル分科会</p> <p><b>テーマ④:Automotive SPICE を体感する!</b> 進行:日本 SPICE ネットワーク</p> <p><b>テーマ⑤:あなたが選ぶ SJ 発表(特別賞?)</b> - 発表を深掘りして、知識を持ち帰ろう - 進行:JASPIC SPI 事例研究分科会(WOK 分科会)</p>
<p>12:00 ～ 13:30</p>	<p style="text-align: center;">休憩</p>
<p>13:30 ～ 16:00</p>	<p style="text-align: center;"><b>◎招待講演</b></p> <p style="text-align: center;"><b>2030 年を見据えて:最適化されるプロセス・持続可能な計算機自然</b></p> <p style="text-align: center;">落合 陽一 氏(メディアアーティスト)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="text-align: center;"><b>◎クロージング</b></p> <p style="text-align: center;">一般発表 表彰式ほか</p>



## 発表資料掲載について

一般発表セッションの発表資料は、会期終了後に日本 SPI コンソーシアムの Web サイトで一般公開します。(掲載許可が得られなかった資料は除きます)

◀日本 SPI コンソーシアム Web サイト▶ <http://www.jaspic.org/>

## 接続に関するご連絡

- オンラインツールとして Zoom と oVice(オヴィス)を利用します。
- PC、タブレット、スマートフォンでのご参加が可能です。oVice は接続の関係で PC の利用を強く推奨します。
- Zoom: PC の Web ブラウザからはプラグインやソフトウェアをダウンロードせずに動画視聴が可能です。  
ただし対応する Web ブラウザは限られますので Zoom 社の Web サイト等をご確認ください。
- oVice: Web 上でのバーチャル空間ツールです。必要に応じて、ご自身の環境における接続確認をお願いします。  
oVice 利用ガイド動画: <https://youtu.be/sRC7M7Itmlw>  
oVice 利用ガイド資料:  
<https://docs.google.com/presentation/d/1VKKBRNhy2yYLuRuBjpSGNEjV5MXK-w6mmrr5kPBTff8/edit?usp=drivesdk>  
oVice ツアースペース(テスト接続先): <https://tour.ovice.in/lobby/guest>
- 接続および視聴に関わる技術的なサポートは提供いたしません。

## オンラインイベント参加にあたってのお願い

- 周囲の騒音に配慮されるなど参加いただく環境にご配慮ください。
- 通信環境の良いところでご参加ください。
- 参加者側の通信環境などの不備により参加が困難となった場合、返金はありません。
- 以下の行為を禁止いたします。皆様のご協力をお願いします。  
異常と思われる接続を見つけた場合、予告なく切断することがあります。
  - 著作権、商標権、プライバシー権、氏名権、肖像権、名誉等の他人の権利を侵害する行為
  - URL、ID、パスワードの第三者への譲渡、貸与
  - 登録者以外の第三者が参加される行為
  - 録音、録画、画面のスクリーンショット撮影などの行為
  - 動画、画像の SNS などへの掲載(発見した場合は削除要求します)
  - オンライン上で発生した不具合を利用した不適切な行為
  - 主催者の承諾なく、営利を目的とした情報提供等の行為
  - イベントに関係のない内容のチャット機能への書き込み
  - その他、主催者が不適切/不相当であると判断した行為

## 基調講演

### 改善と Improvement「つづける」ことの違い

改善は英訳すると「Improvement」ですが、一方でそのまま「KAIZEN」と翻訳する場合があります。実はこの「Improvement」と「KAIZEN」その意味(含意)するところが大きく違うことはあまり知られていません。「改善」は「現状を改めて、より善くする」という意味ですが、実際の改善活動では、まずは変化を起こして「結果 (Result)」を出す事を重視する改善と、現状を正しく認識する「過程 (Process)」を重視する二つのタイプがあります。トヨタ生産方式(リーン生産方式)は、「ジャストインタイム」と「自動化」が2本柱として定義されていますが、これを支える土台が、「三現主義」と「継続的改善(KAIZEN)」という考え方(哲学)です。トヨタ生産方式では「真因がわからなければ、現場に行き行ってわかるまで見(観察)なさい」と教えています。これは、「現場に行く」「本物を見る」「現実で考える」という「三現主義」の教えですが、今日、カタチの見えない「開発プロセス」を改善する場合には、この言葉をどう捉えれば良いのでしょうか。実はこの「三現主義」にこそ「続ける(継続的)」ための秘訣が隠されているのではないかと思います。

私は20年間 TOC 手法によるコンサルティングを行い、100社以上の「KAIZEN 活動」を指導してきました。その経験をもとに、日本文化に根ざした「改善(KAIZEN)」は「改善(Improvement)」とどう違うのかを論じ、VUCA 時代に生きる私たちが「継続的改善」を根づかせるためにどう行動するべきかを考えてみたいと思います。

#### 講演者

村上 悟 氏(むらかみ さとる)

ゴールシステムコンサルティング株式会社

代表取締役



#### プロフィール

1959 年生まれ。大手製造業にて経理、原価計算を担当、社団法人日本能率協会を経て、株式会社日本能率協会マネジメントセンター TOC 推進部チーフコンサルタント。2002 年 9 月より現職。

2006 年にインターナショナル・プロダクション・リサーチジャーナルに発表された論文「日本産業における TOC の適用-日立ツールの事例-」は同年の TOC 世界大会で E・ゴールドラット博士より絶賛され、博士最後の論文「巨人の肩の上に乗って(2008)」に引用されるなど、グローバルな実績を持つ。

2019 年 TOC-ICO 地域貢献賞 (Regional Award)

TOC-ICO 認定 TOC プラクティショナー (SCL、PJT、Finance、TP)

日本 TOC 推進協議会理事長 (2005~2016)

法政大学工学部兼任講師 (2003~2013)

#### 著書:

「不確実な時代に勝ち残る、ものづくりの強化書」クロスメディアパブリッシング

「決定版:在庫が減る! 利益が上がる! 会社が変わる!」中経出版

「TOC 入門・実践者のためのノウハウ手順」日本能率協会マネジメントセンター

「問題解決を見える化する本」中経出版

他、著書・執筆原稿・インタビュー記事多数

## みんなでディスカッション

### 「つづける」にちなんだ話題

ご参加者みなさまの交流を深めるために、ワールドカフェ方式で意見交換会を行います。メインテーマ「つづける」にちなみ、お題として、みなさまのカイゼンへの熱い情熱を今後も継続するための活動や、DX・アジャイル・With コロナでのプロセス改善活動といった最近の話題を取り上げます。初めての方もお気軽にご参加ください。

〈ワールドカフェとは？〉

「知識や知恵は、機能的な会議の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をし、自由にネットワークを築くことが出来る『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの形です。

## トーク&納得セッション

聴くだけの一方通行ではなく、双方向の会話やワークショップで「納得感」をお持ち帰りいただく 5 つのセッションです。

### テーマ①: プロセス設計によるプロセス改善の勘所

進行: ソフトウェア技術者協会プロセス設計分科会(SIGPD) & 派生開発推進協議会 T21 研究会

#### 【概要】

プロセス改善では、プロセスを見える化(モデル化)して、再設計することが重要です。しかしながら、プロセスを分析し、設計・検証する技術は統一的に語られていない上に、属人的なスキルやセンスに依存している部分も大きいのではないのでしょうか。そこで、本セッションでは、プロセス改善で陥りがちな問題について、さまざまなプロセス設計による問題解決例を題材に、プロセス改善で押さえるべき勘所について、皆様とディスカッションする予定です。

プロセス設計にお悩みの人、または、興味がある人は、ぜひご参加ください。

## テーマ②: ソシオドラマで知る、あなたと他人

進行: JASPIC 人材育成分科会

### 【概要】

ソシオドラマは心理的安全性を確保しながら「感情」を主役にする心理劇です。演者は、感情渦巻く「擬人化された世界」に巻き込まれていきます。他者の感情的な言動に反応しながら、他者と自分の行動を理解しようとします。この体験を繰り返し、他者の立場を理解する力を育成するワークショップです。

…と、ここまで「感情」を扱うなんて、ちょっと重い印象を持った方もいるかもしれません。

本ワークショップは、笑いあり涙あり(?)、リラックスして楽しめます。心理劇に参加いただく方、観客として参観していただく方、それぞれの立場で楽しめます。

どうぞ、お気軽にご参加ください

【定員】 20 名

## テーマ③: アジャイルでハッピーになるには？

進行: JASPIC アジャイル分科会

### 【概要】

昨今、アジャイル開発の裾野が広がってきていることは、JISA や PMI のアンケートなどからも明らかです。一方、アジャイル開発を始めてはみたものの、思ったほど効果が出ないという声も聞こえてきます。開発の現場では何が起きているのでしょうか？そして、どうすればアジャイル開発でハッピーになれるのでしょうか？

当セッションでは、アジャイル開発の現場で起きていることを明らかにし、ハッピーになるために何をすれば良いのかを参加者のみなさんと一緒に考えます。

## テーマ④:Automotive SPICE を体感する！

進行:日本 SPICE ネットワーク

### 【概要】

日本 SPICE ネットワーク及び Automotive SPICE モデルとそのファミリーモデル、ガイドラインを紹介した後、演習の内容を説明(モデルのアクティビティの紹介)、参加者のグループワークとして Automotive SPICE のアクティビティについて、参加者(グループ)の実際の活動においてできているところ、できていないところを考えてもらい、モデルの体感をしてもらいます。講師が各グループに入り、モデルの解釈などの説明を適宜実施し、参加者全員で、グループ毎に、違いや良い点、難しい点などを共有します。

参加者には事前に Automotive SPICE モデル(フリー)を事前にダウンロードして、お読み頂くことをお願いします。モデルのダウンロード先は下記になります。

[https://www.automotivespice.com/fileadmin/software-download/Automotive\\_SPICE\\_PAM\\_31\\_Japanese.pdf](https://www.automotivespice.com/fileadmin/software-download/Automotive_SPICE_PAM_31_Japanese.pdf)

当日は、以下のプロセス候補から参加者を選択いただき、小グループに分け、演習を進めます。

[VDA スコープ]

ACQ.4 サプライヤー監視、SYS.2 システム要件分析、SYS.3 システムアーキテクチャ設計、  
SYS.4 システム統合および統合テスト、SYS.5 システム適格性確認テスト、SWE.1 ソフトウェア要件分析、  
SWE.2 ソフトウェアアーキテクチャ設計、SWE.3 ソフトウェア詳細設計およびユニット構築、  
SWE.4 ソフトウェアユニット検証、SWE.5 ソフトウェア統合および統合テスト、  
SWE.6 ソフトウェア適格性確認テスト、SUP.1 品質保証、SUP.8 構成管理、SUP.9 問題解決管理、  
SUP.10 変更依頼管理、MAN.3 プロジェクト管理

## テーマ⑤:あなたが選ぶ SJ 発表(特別賞?)

### - 発表を深掘りして、知識を持ち帰ろう -

進行:JASPIC SPI 事例研究分科会(WOK 分科会)

### 【概要】

・嬉しいこと:

このワークショップでは、聴講した発表をさらに深掘りし、自分の組織に持ち帰り可能な知識として整理することができるスキルの獲得を目指します。さらに、今回使用する発表概要フォーマットに慣れることで SPI の事例や知識を伝えるスキルの向上につながります。

・進め方:

カンファレンス中に聴講した発表の中から興味のあるものを選び、発表概要を使いつつ内容を整理・深掘りします。見つかった知識をグループで議論し、再利用の観点から優れた発表を選びます。

みんなが選んだ発表が表彰されるかも？

【定員】 30 名

## 招待講演

### 2030 年を見据えて:最適化されるプロセス・持続可能な計算機自然

落合陽一はコンピュータ研究者や起業家やアーティストの側面から社会を観察し続けるなかで、現代社会の変化に着目している。コロナ禍で様々な業態に変化が訪れるなか、DX の市場は成長を続け、我々の生活にはデジタルツールを用いたコミュニケーションが増え続けている。

落合の提唱する計算機自然の中でコアとなる考え方は「限界費用ゼロ化」に伴う AI の民主化、プラットフォームの分散化、インフラの再活用である。この講演では近年着目している持続可能性と炭素循環、定在する遊牧民化する我々の生活と未来社会のビジョンの中で最適化技術はどう変化し、どうプロセス改善に関わっていくのかを軸にお話する。

#### 講師

落合 陽一 氏(おちあいよういち)

メディアアーティスト



@蜷川実花

#### プロフィール

メディアアーティスト。1987 年生まれ、東京大学大学院学際情報学府博士課程修了(学際情報学府初の早期修了)、博士(学際情報学)。筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターセンター長、准教授・JSTCRESTxDiversity プロジェクト研究代表。IPA 認定スーパークリエイター/天才プログラマー。ピクシーダスト テクノロジーズ代表取締役。2017 年 - 2019 年まで筑波大学学長補佐、2018 年より内閣府知的財産戦略ビジョン専門調査会委員、内閣府「ムーンショット型研究開発制度」ビジョナリー会議委員及び内閣府ムーンショットアンバサダー、デジタル改革法案 WG 構成員、2020-2021 年度文化庁文化交流使、大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーなどを歴任。

2015 年 WorldTechnologyAward、2016 年 PrixArsElectronica、EU より STARTSP Prize を受賞。LavalVirtualAward を 2017 年まで 4 年連続 5 回受賞、2017 年スイス・ザンガレンシンポジウムより LeadersofTomorrow 選出、2019 年 SXSWCreativeExperienceARROW Awards 受賞、2021 年 MIT Technology Review Innovators Under 35 Japan、2021 PMI Future 50、Apollo Magazine 40 UNDER 40 ART and TECH などをはじめアート分野・テクノロジー分野で多数受賞。

個展として「ImageandMatter(マレーシア・2016)」、「質量への憧憬(東京・2019)」、「情念との反芻(ライカ銀座・2019)」など。その他の展示として、「AI 展(バービカンセンター、イギリス・2019)」、「計算機自然

(未来館・2020)」など多数出展。

メディアアートを計算機自然のヴァナキュラー的民藝と捉え、「物化する計算機自然と対峙し、質量と映像の間にある憧憬や情念を反芻する」をステートメントに、研究や芸術活動の枠を自由に越境し、探求と表現を継続している。

著書：

「魔法の世紀(2015)」、「デジタルネイチャー(2018)」など。写真集「質量への憧憬(amana・2019)」など

## コミュニケーション広場

SPI Japan 2022 の開催期間中、オンラインコミュニケーションツール「oVice(オヴィス)」を使用して発表者と参加者、参加者同士で気軽に意見交換や雑談ができる場を提供します。

## JASPIC とは

日本 SPI コンソーシアム(JASPIC)は、21 世紀の世界で利用されるさまざまな社会システム、産業システムや各種の工業製品などの開発の中核をなすソフトウェアプロセスの改善(以下 SPI といいます)および SPI に伴うプロセス評価(以下 SPA といいます)に関する研究、技術移転、普及活動、国際交流などを行うことを目的に設立された非営利団体です。

- SPI (Software Process Improvement)
- SPA (Software Process Assessment)

### 1. 活動の趣旨

JASPIC は、地道な改善活動に日夜励んでいる技術者が社会組織の壁<sup>1</sup>を越えてプロセス改善に関して各自の経験や技術を交流し、改善技術を高める場を提供する非営利の団体です。

### 2. 活動の目的

JASPIC は、以下を行なうことを目的とします。

- (1) SPI および SPA に関して会員相互間の技術的・人的交流を図り、会員各自の技術力向上と技術移転の促進を図ります
- (2) SPI および SPA について、技術/方法論/モデルの研究を行ないます
- (3) 我が国における SPI および SPA に関する社会的認識と技術水準の向上を図るため、上記の活動の成果を活かして、SPI および SPA に関する啓発・普及活動を行ないます
- (4) SPI および SPA にかかわるグローバルスタンダード確立に向けた国際貢献や、世界各国におけるカンファレンス等を通じた技術者の国際交流を行ないます

### 3. 活動の概要

JASPIC は、上記の目的を達成するために、次の活動を行なっています。

- (1) 会員相互間の技術的・人的交流のための研究会、講演会、セミナー等の開催
- (2) 技術情報の収集及び配布
- (3) SPI および SPA に関する啓発・普及活動となる公開セミナー、ワークショップ、シンポジウム、SPI カンファレンス等の開催
- (4) 本会が目的を遂行するために必要な、SPI あるいはソフトウェアに関する各種団体との交流や支援
- (5) CMMI の日本語化に対する支援
- (6) SPI 及び SPA 関連文書の発行

---

<sup>1</sup> 社会組織の壁: 英語では、“Social/Organizational Barrier”。会社も含めて、学会、業界団体、政府関係機関、そうした「社会組織の壁」を意味しています。



## 4. JASPIC の会員と運営体制

JASPIC は、17 社の法人会員および個人の会員から構成され、それぞれの法人から参画している研究員や個人の会員は約 100 名となっています。JASPIC が提供するさまざまな活動やサービスは、研究員を中心に推進しています。以下に会員の一覧と、運営体制を示します。なお個人会員氏名は公開していません。

### ■JASPIC 会員(2022 年 8 月現在)

#### 【法人会員】

アズビル株式会社	株式会社インテック
株式会社SRA	NEC ソリューションイノベータ株式会社
株式会社NTTデータ	オムロンソフトウェア株式会社
キオクシア株式会社	キヤノンITソリューションズ株式会社
株式会社シーエーシー	ソニー株式会社
学校法人千葉工業大学 小笠原研究室	TIS株式会社
株式会社東芝	パナソニック株式会社
株式会社日立製作所	株式会社日立ソリューションズ
富士通株式会社	

#### 【名誉会員】

岸田 孝一	松原 友夫
-------	-------

### ■JASPIC 運営体制(2022 年 8 月現在)

#### 【役員】

理事長	端山 毅(株式会社NTTデータ)	
理事	岡野 信保(株式会社日立製作所)	佐藤 弘(NEC ソリューションイノベータ株式会社)
	島田 さつき(富士通クオリティ・ラボ株式会社)	中川 雅通(パナソニック インダストリー株式会社)
外部理事	近藤 康二	野中 誠(東洋大学)
会計監事	池田 浩明(株式会社インテック)	
アドバイザ	岡田 公治(東京都市大学)	

#### 【運営委員会】

委員長	遠藤 潔(株式会社日立ソリューションズ)	
副委員長	後藤 徳彦(NEC ソリューションイノベータ株式会社)	小松澤 敦(株式会社日立ドキュメントソリューションズ)
	佐藤 慎一(株式会社NTTデータ)	菅原 広行(ソニー株式会社)
	水田 恵子(パナソニック インダストリー株式会社)	

## 5. JASPIC 活動概要

JASPIC では、以下の 3 つの活動を中心に活動をしています。

### (1) 例会、分科会、合宿

会員間の情報共有、議論の場として活用します

- 【例会】

2 ヶ月に一回、午後半日で開催します。講演や会員企業からの事例発表が中心です。

- 【分科会】

あるテーマに対して、興味を持つメンバが集まり、一年間にわたって深く議論し、成果物を残します。

ここで作成した成果物は、JASPIC 会員企業のメンバが活用できるように提供されます。

- 【合宿】

年一回開催(5~6 月に開催、2 日間)。特定のテーマに関する議論や各社の SPI 活動事例を紹介する場として活用しています。

### (2) イベント

- SPI に関する実践事例の共有、先端技術の導入および SPI の普及(SPI に関する認知度を高める)のために開催しています。

SPI Japan(秋)/JASPIC トワイライトフォーラム(年 4 回程度夜間開催)
--

※JASPIC 会員は、無料あるいは会員価格で参加できます。

- その他

・社外団体との交流および、国際会議などへの派遣なども実施 ・SPI 以外の幅広い情報/海外の最新動向が入手可能
--

### (3) セミナー、トレーニング

JASPIC 会員のスキルアップを目指した活動(海外、国内の SPI コンサルタントとの契約を含む)です。

JASPIC 会員の要望に基づいて計画され実施されます。

## 6. JASPIC への参加方法

### (1) 入会について

以下のサイトを参照してください。

[http://www.jaspic.org/organization/join\\_us/](http://www.jaspic.org/organization/join_us/)

### (2) お問い合わせ

以下のサイトに載っている連絡先までご連絡ください。

<http://www.jaspic.org/contact/>

## カンファレンススタッフ

### ●SPI Japan 2022 実行委員長

武田 治紀(株式会社日立製作所)

### ●SPI Japan 2022 副実行委員長

池田 浩明(株式会社インテック)

### ●SPI Japan 2022 プログラム委員長

八木 将計(株式会社日立製作所)

羽原 寿和(株式会社東芝)

久和 恭子(パナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社)

### ●SPI Japan 2022 プログラム委員

飛田 正宏(キオクシア株式会社)

泉 友弘(株式会社 NTT データ)

村上 淳(NEC ソリューションイノベータ株式会社)

榎本 英治(キヤノン IT ソリューションズ株式会社)

後藤 武志(株式会社日立ソリューションズ)

野澤 秀樹(株式会社シーエーシー)

遠藤 潔(株式会社日立ソリューションズ)

飯田 洋介(アズビル株式会社)

大盛 誠人(株式会社 NTT データ)

平原 嘉幸(株式会社東芝)

坂井 秀年(TIS 株式会社)

水田 恵子(パナソニック インダストリー株式会社)

阿南 佳之(オムロンソフトウェア株式会社)

両角 圭史(ソニー株式会社)

古石 ゆみ(株式会社 SRA)

植村 貴美(個人会員)

豆腐谷 晶憲(株式会社 SRA)

丹下 浩一(NEC ソリューションイノベータ株式会社)

望月 優希(富士通株式会社)

今野 裕紀(千葉工業大学)

金光 暁(富士通株式会社)

### ●SPI Japan 2022 SJ サポーター

黒川 俊雄(株式会社シーエーシー)

岸 利至(キオクシア株式会社)

清水 崇司(個人会員)

丹羽 愛一郎(個人会員)

菅原 広行(ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社)

安倍 秀二(個人会員)

後藤 徳彦(NEC ソリューションイノベータ株式会社)

向山 英伸(富士通株式会社)

林 好一(個人会員)

緒方 勝(東芝インフラシステムズ株式会社)

小笠原 秀人(千葉工業大学)

### ●SPI Japan 2022 事務局

河野 明子(SRA)

鶴田 範子(SRA)

乗松 聡(乗松プロセス工房)

### ●JASPIC セミナー推進チーム

小松澤 敦(株式会社日立ドキュメントソリューションズ)

中山 高宏(ソニー)

中森 勝(パナソニック株式会社)

竹内 朝一(東芝デベロップメントエンジニアリング株式会社)

CMMI は、INFORMATION SYSTEMS AUDIT AND CONTROL ASSOCIATION, INC.により米国特許商標庁に登録されています。

Automotive SPICE は、Verband der Automobilindustrie e.V. (VDA)の登録商標です。

PMBOK は、米国 Project Management Institute, Inc.の米国その他の国における登録商標です。